

3 環境負荷の実績と目標

主要な環境活動について目標値を定め、環境負荷①の低減に努めています。

	項目	単位	実績			2004年度 目標値	評価※1	
			2002年度	2003年度	2004年度			
地球環境問題①への取り組み	CO ₂ ①排出削減	-	-	-	-	-	(新規に設定)	
	使用端CO ₂ 排出原単位①	kg-CO ₂ /kWh (万t-CO ₂ /億kWh)	0.336 (-)	0.309 (-)	0.331 (-)	0.34程度	○	原子力発電所の安全・安定運転に努めた結果、原子力利用率は計画から1.8ポイント向上し、これにより、使用端CO ₂ 排出原単位は目標を達成しました。 また、CO ₂ 排出量は、夏季の気温が高めに推移し販売電力量が計画から24億kWh増加したことにより、目標より若干増加しました。
	CO ₂ 排出量	万トン-CO ₂	2,570	2,390	2,660	2,600程度		
	原子力利用率①	%	85.9	88.9	86.2	84.4	○	
	火力発電所熱効率①(送電端①)※4 〔〕内は発電端①	%	39.0 [40.5]	39.2 [40.8]	39.3 [40.8]	39程度 [40程度]	○	新大分発電所3号系列(送電端熱効率:46.3%)など高効率発電所の高稼働により、目標を達成しました。
	新エネルギー①等電気利用量	百万kWh	-	391以上	425以上	425以上	○	新たにRPS法①対象電源に認定された地熱・バイナリー発電①などの自社開発やお客さま等からの電力購入に努めたことにより、目標を達成しました。
	送配電ロス率①	%	5.5	5.4	5.5	5.5	○	販売電力量は計画から増加しましたが、低損失型変圧器の導入など送配電設備の効率向上に継続的に努めた結果、目標を達成しました。
使用面	オフィス電力使用量	百万kWh	108	106	105	103以下	×	EMS①の運用による省エネ活動の徹底により、前年度から1%削減しましたが、事業所の新規設置等により、目標から2百万kWh超過しました。今後は、高効率機器の導入等により削減を図ります。
	低公害・低燃費型車両①導入率※6	%	5.0	11.8	21.6	20以上	○	計画どおり、ハイブリッド車①14台、低燃費車①334台を導入したことにより、目標を達成しました。
	機器点検時のSF ₆ ①回収率	%	98	98	98	98以上	○	設備管理部門の自主管理により、点検時における真空型SF ₆ ガス回収装置の使用徹底等を図り、目標を達成しました。
	機器点検時の規制対象フロン①回収実施率	%	-	99	100	100	○	設備管理部門の自主管理により、法令基準レベル(撤去時における法定圧力)までの規制対象フロン回収の確実な実施を図り、目標を達成しました。
循環型社会①形成への取り組み	産業廃棄物①リサイクル率①	%	74	92	92	90以上	○	建設資材等としての石灰灰有効利用普及・拡大や、用途に応じた品質や量などユーザーのニーズに応じた流通拡大に向けた取り組みにより、目標を達成しました。 また、環境マネジメントシステムを通じた、リサイクル率目標の確実な達成に向けた取り組みの実施により、目標を達成しました。
	石灰灰①リサイクル率	%	68	90	90	90以上	○	
	石灰灰以外リサイクル率	%	97	99	98	98以上	○	
	産業廃棄物社外埋立処分量※7	トン	1,420	1,160	1,040	-	-	(新規に設定)
	古紙①リサイクル率	%	100	100	100	100	○	グループ会社の九州環境マネジメント(株)等リサイクル会社へ確実に引渡すなど、古紙100%リサイクル活動の継続的な取り組みにより、目標を達成しました。
	グリーン調達①率※8	%	83	88	94	100	△	社内イントラネットやグリーンカタログの配布等により購入徹底を図り、前年度から6ポイント向上しましたが、目標には未達でした。今後も、社内への周知徹底等により調達率向上を図ります。
地域環境との共生	SOx①排出原単位① (火力発電電力量当たり)	g/kWh	0.27	0.16	0.20	0.2程度	○	販売電力量が計画から増加し、排出原単位が比較的高い火力発電所の発電電力量が増加しましたが、排煙脱硫装置①や排煙脱硝装置①等の適正な運用により目標を達成しました。
	NOx①排出原単位① (火力発電電力量当たり)	g/kWh	0.22	0.18	0.18	0.2程度	○	
	原子力発電所周辺公衆の線量評価値①(1年当たり)	ミリシーベルト①	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	○	原子力発電所における、法令に則った適正な設備運用や放射性廃棄物①の管理によって、目標を達成しました。
社員意識高揚	エネルギー管理士①有資格者数	人	783	870	960	500以上	○	関係法令に則った適正な事業活動の実施を図るため、資格取得制度などを継続的に充実させたことにより、目標を達成しました。
	公害防止管理者①有資格者数	人	486	490	507	500以上	○	

※1：2004年度目標値に対する2004年度実績の達成状況を、「○:達成」、「△:おおむね達成(達成率80%以上)」、「×:未達成(達成率80%未満)」の3段階で評価

※2：今回、新たに2005～2009年度の5年間を対象とする中期経営方針を公表したため、目標年度及び目標値もこれにあわせて変更

※3：2005年度供給計画に基づく見直し

※4：発電所内での電力使用(所内比率)の削減を含めた管理とするため、2004年度に目標を発電端熱効率から送電端熱効率へ変更。なお、従来の発電端熱効率を、〔 〕内に併記



用語説明

詳細については用語集を参照ください。

使用端CO2排出原単位
販売電力量1kWhあたりのCO2排出量、すなわちお客さまが九州電力の電気を1kWh使用される際のCO2排出量のこと。

利用率
発電所や変電所などの供給設備容量に対する平均電力の比をいい、設備がどのくらい有効に使われているかを見る指標。

熱効率
火力発電所において、燃料の燃焼によって得られた熱エネルギーのうち、有効に電気となった割合を表すときに用いる数値。

送配電ロス(率)
発電所から送電した電力のうち、送電線・配電線で失われる電力が占める割合のこと。

グリーン調達
市場に供給される製品・サービスの中から環境への負荷が少ないものを優先的に購入・調達すること。

- ・環境負荷
・地球環境問題
・CO2(二酸化炭素)
・熱効率(送電端)
・熱効率(発電端)
・新エネルギー
・RPS法
・バイナリー発電
・EMS(環境マネジメントシステム)
・低公害・低燃費型車両
・ハイブリッド車
・低燃費車
・SF6(六フッ化硫黄)
・規制対象フロン
・循環型社会
・産業廃棄物(産廃)
・リサイクル率
・石炭灰
・古紙
・SOx(硫酸酸化物)
・NOx(窒素酸化物)
・排出原単位
・排煙脱硫装置
・排煙脱硝装置
・線量評価値
・ミリシーベルト
・放射性廃棄物
・エネルギー管理士
・公害防止管理者
・グリーンエネルギー車
・電気自動車
・低排出ガス車

Table with columns: 経過目標値, 目標値, 各年度の実績および目標値の推移. Rows include CO2 emissions, power generation efficiency, and waste management metrics.

掲載ページ

P24~28

P24

P26

P26~27

P28

P29

P29

P28

P29

P34~35

P35

P36

P37

P39

P32, 40

P46

*5: 電気事業者による新エネルギー等の利用に関する特別措置法(RPS法)に基づく2005年度の基準利用量の決定に伴い見直しの予定
*6: クリーンエネルギー車(電気自動車、ハイブリッド車)と低燃費車(平成22年度燃費基準適合車かつ国土交通省認定低排出ガス車)の全社用車に占める割合
*7: 最終処分場逼迫等の社会情勢を踏まえて、リデュース面からの取り組みを重視した目標として新規に設定
*8: 調達範囲は、汎用品(事務用品、雑貨等)で社会的に認知された基準に適合した製品等